

# ★安全衛生教育のポイント★

労働災害を防止するためには、機械や設備など作業環境の改善などの安全化とともに、安全衛生に関する教育が大切です。安全衛生を確保するためには、作業を安全で衛生的に進める方法を知る事、そして安全衛生に対する意識を持つ事が第一歩になります。災害防止や、疾病予防の為に必要であり、何より法で定められたものであります。具体的に、チェックすべきポイントをご紹介します！

- ① 機械・原材料の取扱い方法を理解させる  
(職場にどんな機械や有害物があるか資料にまとめ、説明する)
- ② 安全装置・保護具などの必要性を理解させる  
(どんな安全装置と保護具が必要か、種類と取扱いを説明する)
- ③ 作業開始時の点検を義務付をする  
(点検を行うべきものを明確にし、日常点検リストを作り行う)
- ④ 整理整頓・清潔の保持で能率、効率を高めさせる  
(整理・整頓・清掃・清潔・躰「5S」をそれぞれでチェックし合う)  
「決められたことをきちんと守る」全てにおいて共通することで、一人一人の意識が高まれば防止出来ます。当たり前な事を毎日忘れずに行うことで、労働災害を予防出来る近道になるのではないのでしょうか。

# 災 害 統 計 と 事 例

		年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
林業	28年	1	3	6	1	2	3	2	3	3	3	3	9	5	41	
	29年	6	1	5	4	1	4	4	2	3	3	5	2	40		

統計結果から見ると、11月と3月の数字が多いです。ほとんどの事例が、伐倒作業中におきた事故だそうです。どんなに注意をしても、予期せぬ危険が潜んでいることがあります。「人間誰も痛い目に合わないとは反省しない」自覚する為、危険予知能力を身に付けさせるには、ちょっとした怪我の経験も必要なのかもしれません。しかし、重大災害が発生してしまってから、「以後気を付けます」では済みません。徹底的な事前対策をする為、手を抜いたり、忘れたりしないよう心掛けましょう！

日本人にとって、お祝い事などにも使いたい特別な花でもあります。桜が人気の理由は、「冬の後に咲き春の訪れを教えてくれる」「短命でパッと咲き散っていくことから、生命の美しさや儚さを感じられる」「夜になってもしぼむことなく咲いている」との理由が良く言われているそうです。昔々の奈良時代は、桜よりも香高い中国から伝来してきた「梅」でお花見していたそうです。日本独自の文化発展により、「桜」に変わったとか。桜の葉には、桜以外の植物が周りに生えないよう地面の養分を独り占めする“毒”があるそうです！食するのには問題ないとのこと。“綺麗な花にはトゲがある”なんて言いますよね。最後に、桜開花の「600度の法則」知っているのは全体の15%！  
“2月1日以降の毎日の最高気温を足し上げ、その累計値が600度を超えた日に桜が開花するとのこと。知る人ぞ知る、予報の方法となっているそうです！

# 依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業  
塩山事務所  
総務部

人生に失敗がないと、  
人生を失敗する

今月の一言

# 「桜」の豆知識

